



掛川市の 学校再編計画について

～子どもたちによりよい教育環境の整備を～

掛川市・掛川市教育委員会

この資料の内容

- | | |
|-------------------|-------|
| 1 なぜ学校再編が必要なのか | 3～11 |
| 2 望ましい教育環境とは | 12～18 |
| 3 まちづくりにも配慮した学校再編 | 19～20 |
| 4 学校再編をどのように進めるか | 21～24 |

1-1 授業が昔と変わってきていることを御存知ですか？

むかし

一斉授業
暗記

先生が教える
知識のテスト



現在

仲間と議論 教え合い
探求活動 ICT活用
発表(プレゼン)

- 子ども自身が、**主体的・能動的**に参加する授業・学習を重視
- グループ活動を取り入れた授業



小学校の授業の様子

1-2 実際に今の**授業**の様子を見てみましょう

授業はどのように変わってきたのでしょうか？

実際に今の学校の授業を見てみましょう。



上の画像をクリック（タップ）すると動画サイトにリンクします。

または

掛川市 学校再編計画 意見交換会

検索

市のホームページからご覧ください。

1-3 なぜ授業が変わってきたのでしょうか

「生きる力」を育成するための授業改革

「生きる力」

今までの教科の学習だけでは、社会の変化に対応していくことが難しい。今までに経験のしたことのない場面に遭遇した時に、答えのない問題に対応できる力。

知識を豊富に持つ優秀な人よりも、様々な情報や知識をもとに、新たな価値を創造できる有能な人が求められるようになった。



新たな社会の到来

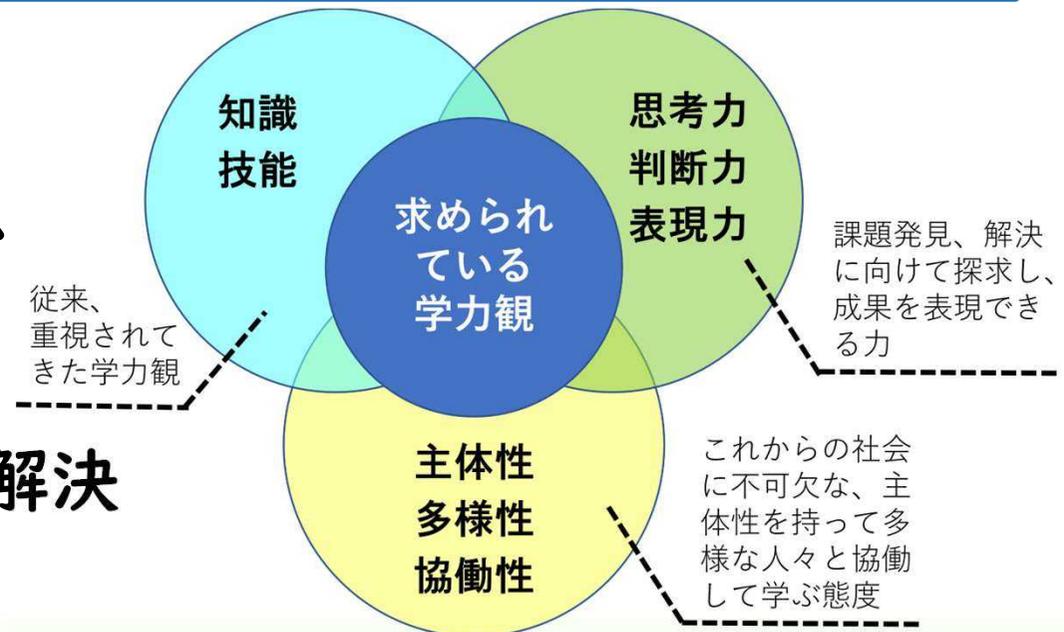
1-4 新しい学力観・授業観(情報・知識はAI、創造力は人間)

知識や技能を習得することの他、

- ・自ら学ぶ意欲
- ・知識や技能を活用して課題を解決するために必要な力

がより重視されるようになっていきます。

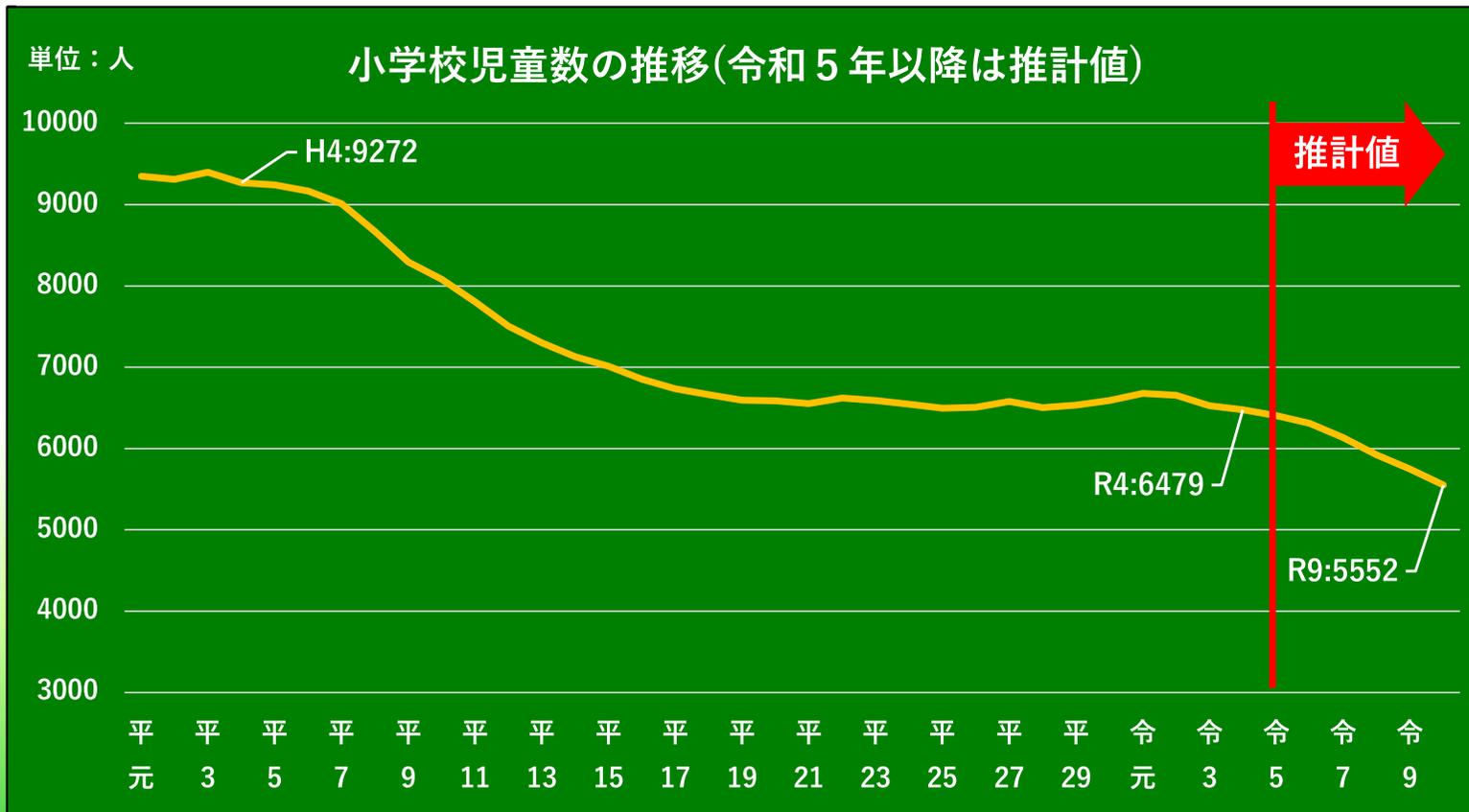
これらの力をバランスよく育むために授業は変化してきたのです。一人一台タブレット端末が配布されたのもこの変化に対応するためです。



1-5 進む少子化

掛川市の小学校の児童数の推移

令和5年度以降の推計は、住民基本台帳の実数を使用している。



市内の児童数は、平成のはじめに比べて約30%減少。

1-6 学校の小規模化が進んでいます

市内の小学校22校の児童数とクラス数（30年前との比較）

学校名	平成4年度		令和4年度		学校名	平成4年度		令和4年度	
	児童数	通常学級数	児童数	通常学級数		児童数	通常学級数	児童数	通常学級数
日坂小	173	6	69	6	原田小	175	6	54	6
東山口小	284	12	154	6	原泉小	59	6	-	-
西山口小	483	16	565	18	西郷小	372	16	447	15
上内田小	237	8	125	6	倉真小	172	6	51	6
城北小	870	24	659	20	土方小	249	8	172	6
第一小	732	23	642	21	佐束小	279	12	144	6
第二小	326	12	408	13	中小	185	7	118	6
中央小	726	22	565	18	大坂小	671	20	390	13
曾我小	240	8	195	7	千浜小	385	12	159	6
桜木小	827	24	705	23	横須賀小	727	21	327	12
和田岡小	343	13	158	6	大淵小	314	12	145	6
原谷小	443	13	227	8	合計	9,272	307	6,479	234

静岡県では、令和4年現在、小中学校1学級の児童・生徒数の上限を35人と定めています。

1-7 小規模校のメリット・デメリット

メリット

学習面	<ul style="list-style-type: none">◎ 子ども一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。◎ 学校行事などで、子ども一人ひとりの活躍機会を設けやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none">◎ 子ども相互の人間関係が深まりやすい。◎ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。
運営面	<ul style="list-style-type: none">◎ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。◎ 学校が一体となって活動しやすい。○ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none">○ 保護者や地域との連携が図りやすい。

丸印は、学校現場の視点からの評価（デメリットも同様）



1-8 小規模校のメリット・デメリット

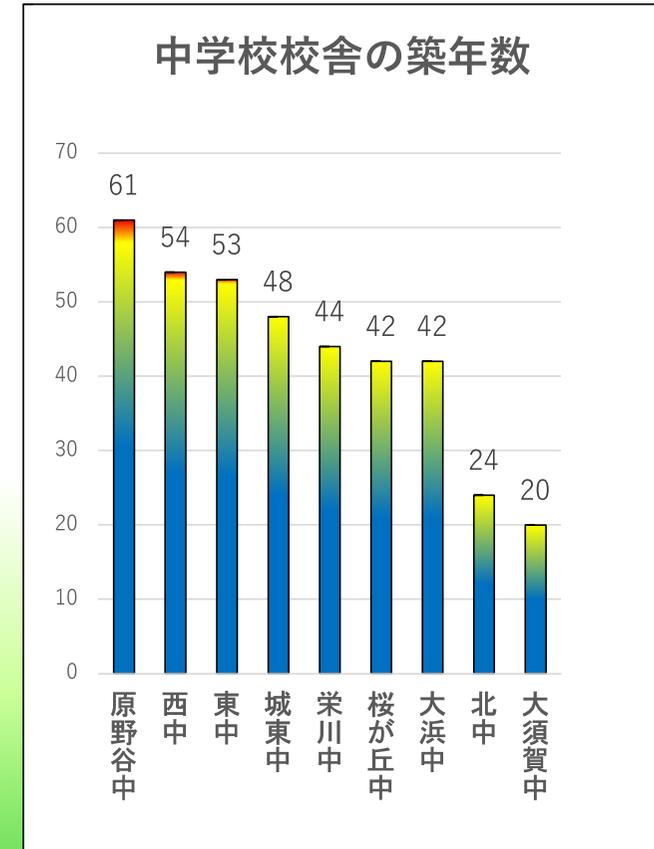
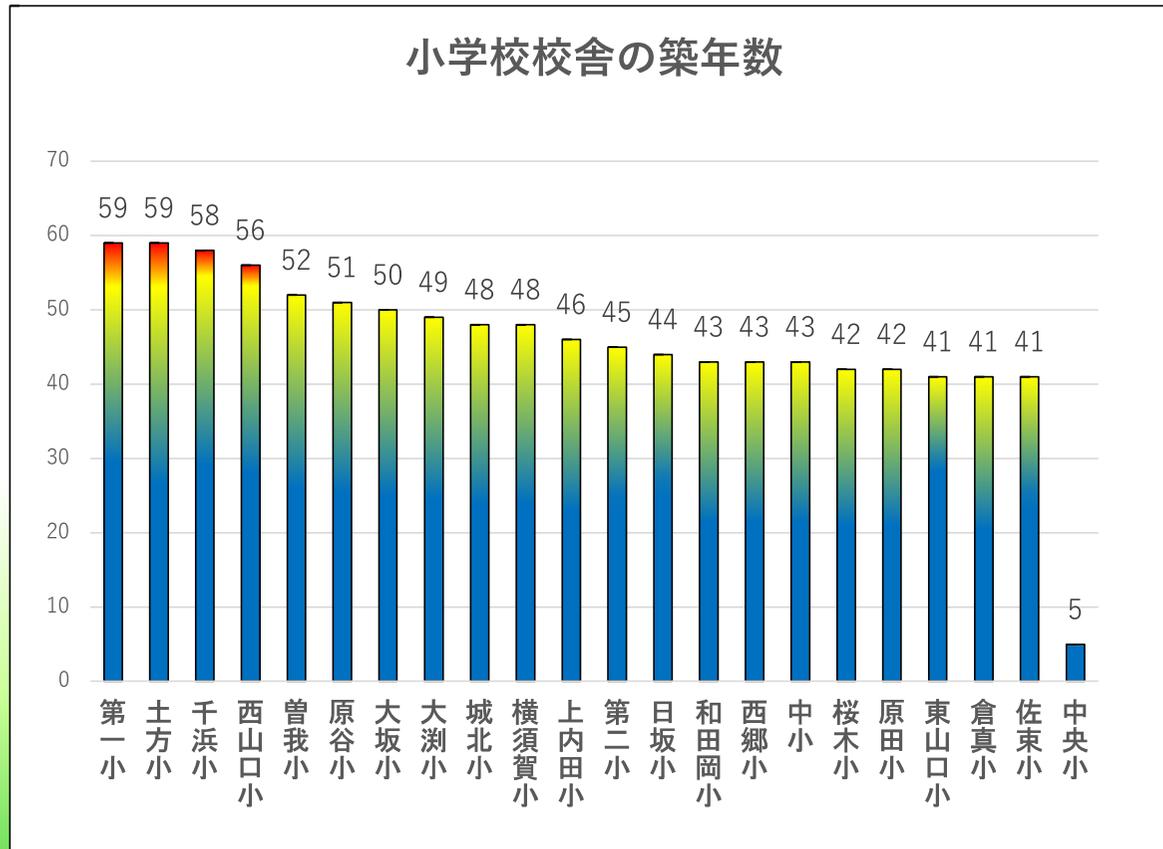
デメリット

学習面	<ul style="list-style-type: none">◎ 集団の中で多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会が少ない。◎ 学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じる。◎ グループ学習、習熟度別学習、小学校での専科教員による指導等、多様な学習・指導形態が行いにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none">◎ クラス替えができないため、子どもたちの人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
運営面	<ul style="list-style-type: none">◎ 教員の経験や教科、特性などの面でバランスのとれた配置が難しい。◎ 教職員同士での相談、協力、切磋琢磨等が行いにくい。◎ 1人の教員が複数の校務分掌を担当しなくてはならない。◎ 教員の出張、研修等の調整が難しい。
その他	<ul style="list-style-type: none">◎ PTA活動等における保護者1人当たりの負担が大きい。



1-9 学校施設の老朽化の進行

小中学校校舎の築年数（主要校舎の状況）



全国の鉄筋造の校舎の改築までの平均的な使用年数は概ね42年間（文部科学省公表）

2-1 市が考える望ましい教育環境

新しい学校づくりは、**子どもファースト**の視点で

【新たな学園づくりの基本方針】

- ・市が進めている教育（小中一貫教育）に適した環境
- ・市民総ぐるみの教育（中学校区学園化構想）
が進められる環境
- ・一定の集団規模を確保
- ・子どもたちの安全の確保
- ・地域の活動拠点

2-2 保護者が考える理想の教育環境とは

保護者アンケートの結果（令和4年1月実施）

学校に期待すること	夢や希望を持つことができる	55.5%
	確かな学力が育成できる	67.4%
	健康・体力を高めることができる	57.9%
	仲間とともに協力できる	84.2%
	礼儀やマナーが身に付く	58.7%
	思いやりの心を育む	79.5%
	その他	2.1%

これからの子どもたちに必要な力	思考力	66.8%
	問題解決力	68.4%
	意思決定力	57.4%
	コミュニケーション力	89.0%
	情報の選択・活用力	52.9%
	想像力	49.2%
	その他	2.2%

理想の学級数は	1学級	2.8%
	2学級	20.9%
	3学級	48.3%
	4学級	17.4%
	5学級	2.5%
	6学級以上	4.9%
	その他	0.6%

理想の1学級の人数は	10人以下	0.4%
	11~15人	3.6%
	16~20人	20.4%
	21~25人	45.0%
	26~30人	27.3%
	31~35人	2.7%
	その他	0.3%

2-3 掛川市が取り組んでいる園小中一貫教育

小中一貫教育は、小学校と中学校が目指す子ども像を共有して、小学校6年間と中学校3年間をあわせた9年間を通じた教育課程を編成し、継続的（系統的）に行う教育のことです。



中学校の英語科教員による
小学校外国語の指導



小中学生の合同合唱

掛川市では、小中学校に加えて園（幼稚園、認定こども園、保育園）との連携もより強化した園小中一貫教育を進めています。

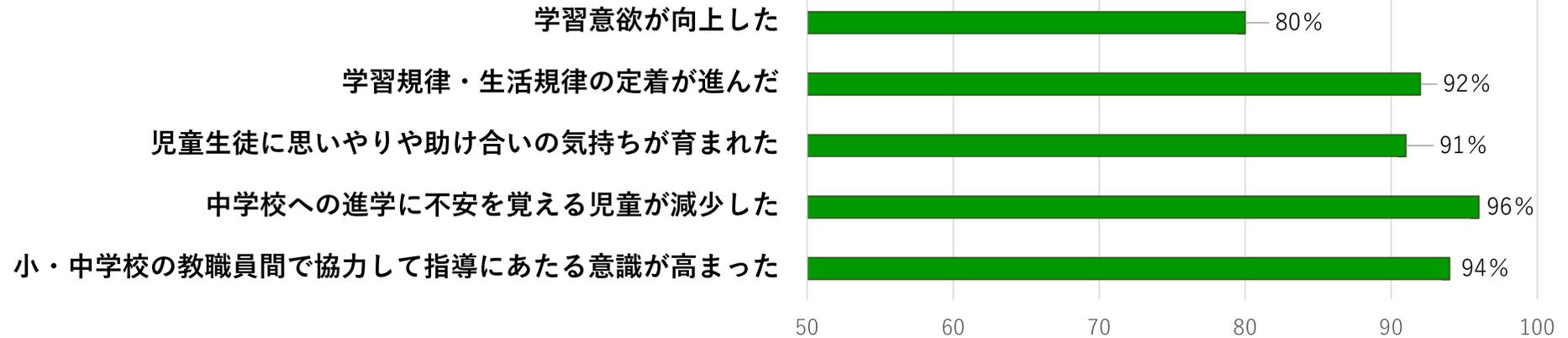
かけがわ型
学びと育ちのジョイントブック



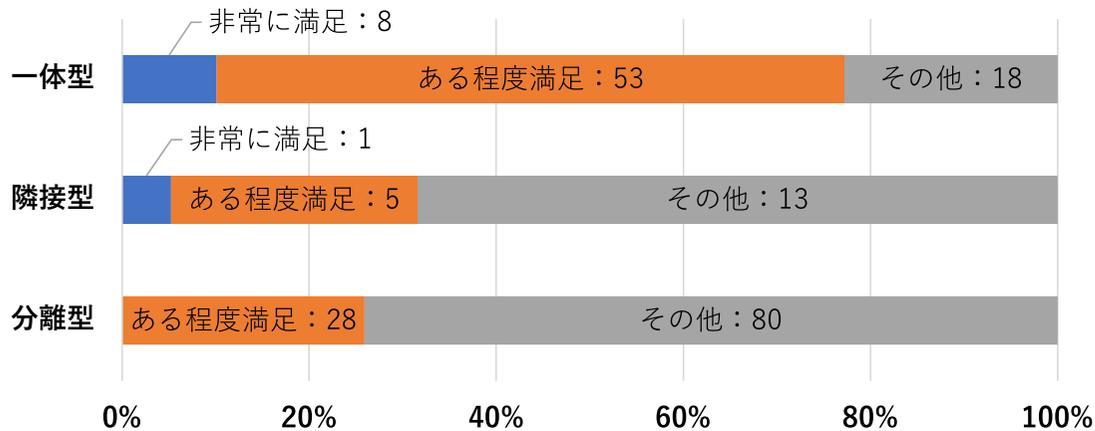
2-4 小中一貫教育の効果

小中一貫教育の成果

※「大きな成果が認められる」「成果が認められる」と回答した割合



施設面での総合的な満足度

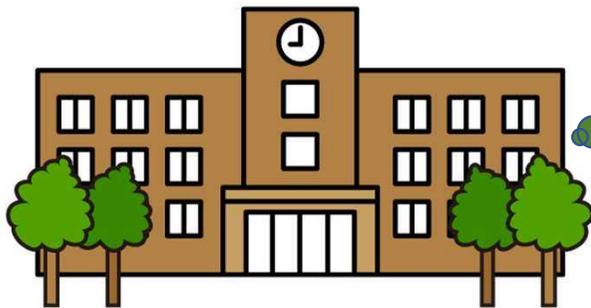


回答：全国の249市区町村
(小中一貫教育実施市区町村)
【平成29年3月文部科学省調査】

回答：全国小中一貫教育校207校
【平成29年3月国立教育政策研究所調査】

2-5 小中一貫教育と施設一体型・施設隣接型一貫校

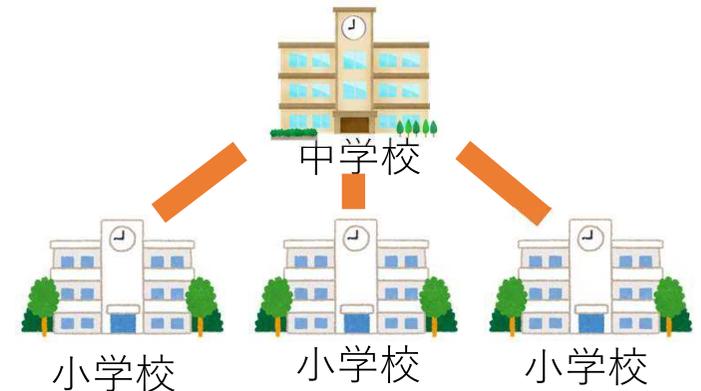
施設**一体型**小中一貫校



小中学校を1つに

一般的に
イメージする
のはこの形態
だけど・・・

施設**分離型**小中一貫校



施設**隣接型**小中一貫校



どの形態でも一貫教育を
実施していれば
小中一貫校と言います

小中一貫教育の効果をより上げるためには、施設一体型や隣接型等の施設面の環境整備が有効です。

2-6 中学校区学園化構想と地域とのつながり

中学校区学園化構想

平成25年度から、市内全中学校区で実施。

取組 1

地域の教育力を園・小学校・中学校に取り込む（市民総ぐるみの教育）

園・学校を支援して下さった方の人数 延べ 75,558人(R3年度)

取組 2

学園内の園小中の連携を強化し、一貫性のある教育を実施



2-7 人口減少、少子化が進む中での施設整備は

掛川市公共施設再配置方針（令和元年8月策定）

- ・ 今後50年間で、市の**保有施設の25%削減**(床面積)を目標とする。
- ・ 面積を減らしつつ、施設サービスの質的向上を図る=縮充（しゅくじゅう）
- ・ 学校・教育施設もこの方針の対象となっています。

【参考】県内他市との学校数の比較

	掛川市	袋井市	焼津市	三島市
児童・生徒数	9,722人	7,754人	10,161人	8,153人
小学校数	22校	12校	13校	14校
中学校数	9校	4校	9校	7校

R4.5.1時点

3-1 学校再編とまちづくり

学校が持つ学校教育以外の多様な機能・・・地域とのかかわり

現状

- ・ 災害時の広域避難所
- ・ 社会体育の活動場所（体育館・グラウンド）
- ・ 放課後児童クラブ
- ・ 地域の自治活動、生涯学習の拠点（主に学校併設の地域生涯学習センター）



掛川市内では、学区と地区の枠組みが基本的に同一で、学校と地域の一体性が高いのが特徴です。

3-2 新しい学校づくりとまちづくりの施設

学校が持つ学校教育以外の機能

このような活用方法も考えられます

- ・ 学校図書館の地域開放
- ・ 音楽室、家庭科室、多目的教室の地域開放
- ・ 学園の地域コーディネーターの執務スペースの確保



磐田市立ながふじ学府小中一体校
に併設された市立図書館

学校施設と地域施設の複合化、共同利用を前提とした校舎整備を検討



子どもたちだけでなく、地域の住民にとってもわくわくする学校づくり
学校が、生涯学習や^まち^ちづくりの拠点になる。

4-1 学校再編の進め方(市の考え)



学校再編はどうやって進めていくの？

①学校再編計画の策定 ← 意見交換会・パブリックコメント

再編計画の内容

- ・現状把握
- ・学校再編の基本方針
- ・学校再編の進め方
- ・再編に向けた検討の着手順

②中学校区ごとに再編プランの検討 ← 地域検討委員会
ワークショップ

↓ 新たな学園・学校づくり基本構想の策定

③設計・建設工事

4-2 具体的な検討は中学校区単位で



具体的な学校の再編プランはいつ出来るの？

市民との対話を行いながら再編プランを検討していきます。

中学校区ごとに(仮称) 新たな学園・学校づくり地域検討委員会を設置し、そこで検討を進めます。

検討内容

- ・学区
- ・どんな学校を作るか
- ・施設の形態
- ・学校の設置場所
- ・学校に複合させる公共施設 等

4-3 検討の順番は老朽化の状況等を総合的に判断



再編に着手していく順番はどうなるの？

財政上の制約から、すべての中学校区で同時に施設の整備を進めることは困難です。

中学校区ごとの優先順位付けを行って、検討に入る順番を決定します。

順位を検討する際に考慮すべき事項（現時点で検討しているもの）

- ・ 施設の老朽化度
- ・ 児童数の増減の状況
- ・ 災害発生の危険度
- ・ 地域住民の意向

市民の参画・協働による新たな学校づくり

市民との対話を行いながら進めます。

今後、様々な段階で意見交換の機会、意見募集の機会を設けていく予定です。

多くの市民の皆さんに関心をお持ちいただき、素晴らしい学校づくりができるように御意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

資料を御覧いただきありがとうございました。

